

けんこう 処方箋

北海道柔道整復師会会長 萩原 正和



ほっかいどう

水曜生きる

木曜よむ語る

金曜楽しむ

土曜考える

火曜学ぶ

挫折乗り越え 医療の地位築く

日本古来からの伝統医療である柔道整復術が国家資格となり、「整骨院」「接骨院」「ほねつぎ」が世間で開業されるに至るまでには、長い歴史があった。

柔道整復師が行う施術を柔道整復術というが、これに関する最古の記述は古事記にまでさかのぼる。

戦国時代、中国から来日した陳元寶は、中国少林寺拳法と、外傷に対する応急手当としての「正骨術」を日本に伝えた。この拳法の一部は武術の柔術へ、正骨術は武術の外傷への手当てとして柔道整復術に発展、普及していった。

江戸時代にはすっかり民間に受け入れられ、けがは整骨、接骨、正骨など「ほ



イラスト・佐藤博美

圧を受け、一方的に資格を停止された。

そのうえ、政府は柔道整復術を患者に施すことも禁じた。多くの柔道整復師が痛切な挫折を感じた。同時に、けがをどこで治したらよいのか路頭に迷う患者も多かったと聞く。

この現状を打破しようとする強い信念で立ち上がったのが、私の祖父の萩原七郎。柔道整復師だった。当時はまた、柔道整復師による統一団体がなく、萩原七郎は行政が認めていない柔道整復術を公認してもらおうと、

「柔道接骨術公認期成会」を立ち上げ、全国に散らばる有力な柔道整復師のところへ出向いた。そして、一人でも多くの柔道整

復師と話し合う努力をして、同時に有力政治家にも働きかけた。

並大抵の決意や努力、体力ではできないことだが、祖父はその強烈な人柄で、人望と運氣、チャンスを手につけたのだろう。

親しかった講道館創設者の嘉納治五郎師範の賛同を得て、日本中の関係者の悲願がかなって、1920

(大正9)年、柔道整復術が医療として認められ、日本初の柔道整復師団体である「大日本柔道整復術同志会」が公認された。この団体は現在、公益社団法人・日本柔道整復師会に成長している。

柔道整復術の知名度はいま、日本だけにとどまらない。2002年、世界保健機関(WHO)が「Judo therapy」として、世界から注目を受ける存在になっている。